

中国語教育学会会報

第63号(通巻88号) 2022年12月04日発行

〒161-8539

東京都新宿区中落合4-31-1

目白大学外国語学部中国語学科

氷野善寛研究室内

中国語教育学会

Website <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

目次

1. 第20回全国大会について	1
2. 2022年度第1回理事会報告	2
2.1. 開催日時・方式・出席者	2
2.2. 報告事項	2
2.3. 審議事項	6
3. 2022年度会員総会報告	8
3.1 日時・方式	8
3.2 審議事項	8
4. 2022年度研究会開催報告	10
5. 事務局からのお知らせとお願い	11
5.1. 会員動向	11
5.2. 会費納入状況、会費納入のお願い	11
5.3. 退会および除籍について	11
5.4. 登録情報の変更について	12
5.5. 第21回(2023年度)全国大会について(続報)	12

1. 第20回全国大会について

中国語教育学会第20回全国大会が2022年6月4日(土)および5日(日)の両日、オンラインで開催されました。初日午前中には第1回編集委員会および第1回理事会が開催されました。午後は開会式に続き、基調講演として中国語教育学会顧問の興水優氏による「中国語教育の『これまで』と『これから』(汉语教学 継往开来)」と玉岡賀津雄氏による「大学を退職した心理言語学者が中国語を勉強して思ったこと」を頂戴しました。その後、「中国語教育学会の20年と21世紀の第二外国語教育再考」というテーマでシンポジウムが実施され、宮崎大学多言語多文化教育研究センター初修外国語(第二外国語)教員の3氏(ドイツ語:胡屋武志, フランス語:松井真之介, 韓国語:金智賢の各氏)による報告が行われ、夕方からは会員総会が開催されました。総会では2022年~23年の役員や、学会誌の電子化と理

事選挙の電子化についての検討の開始などについて報告されました。続いて初の試みとしてバーチャルイベントスペースである「oVice」を利用したオンライン懇親会が行われ1日目が終了しました。大会2日目は6つの分科会に分かれ、午前午後あわせて13本の口頭発表が行われました。当日のプログラムについては学会HPをご覧ください。今回の大会では349名の方から事前申し込みがありました。また11社に出版社オンライン即売会・相談会に参加していただきました。発表者、司会者の方々、参加して下さった会員の皆様、そして全国大会の準備にご尽力くださった第20回全国大会準備委員会の先生方に厚く御礼申し上げます。

2. 2022年度第1回理事会報告

2.1. 開催日時・方式・出席者

日時：2022年6月4日（土）午前10:30-12:30

方式：Zoomを使用したWeb会議

出席者（敬称略）：

氷野善寛、加藤晴子、清原文代、丸尾誠、植村麻紀子、佐々木勲人、鈴木慶夏、陳淑梅、西香織、長谷川賢、平井和之、藤井達也、紅粉芳恵、三宅登之、渡邊ゆきこ

相原里美（『中国語教育』21号（2022年度）編集委員会委員長）

伊藤大輔（デジタルリソース委員会委員長）

藤井久美子（第20中田聡美回全国大会準備委員会委員長）

張雯茜（幹事）、中田聡美（幹事）

欠席者（敬称略）：

阿部慎太郎、西村英希、上野振宇（幹事）

2.2. 報告事項

2.2.1. 2022年度～2023年度役員・事務局

2022年度～2023年度の本学会役員および事務局所在地が以下の通り内定し、会員総会に推挙されることが、中田幹事より報告された。

（1-1）役員

2022年6月4日（土）の総会を経て正式に決定。（以下、五十音順。敬称略）

顧問：興水優、依藤醇

会長：氷野善寛

代表理事：加藤晴子、清原文代、丸尾誠

理事：阿部慎太郎、植村麻紀子、佐々木勲人、鈴木慶夏、陳淑梅、西香織、西村英希
長谷川賢、平井和之、藤井達也、紅粉芳恵、三宅登之、渡邊ゆきこ

幹事：上野振宇、張雯茜、中田聡美

会計監査：赤池晴香、板垣友子

（1-2）事務局

[事務局] 〒161-8539 東京都新宿区中落合 4-31-1 目白大学外国語学部中国語学科
氷野善寛研究室内 中国語教育学会事務局
headoffice@jacle.org

[事務局事務代行] (あゆみコーポレーション)

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A あゆみコーポレーション内
support@jacle.org

2.2.2. 『中国語教育』第21号(2022年度)編集委員会

『中国語教育』第21号(2022年度)編集委員会の構成員が以下の通り決定したこと、および本理事会に先立つ編集委員会において相原里美委員が委員長に選出されたことが、氷野会長より報告された。

相原里美(委員長)、石井友美、王安、謝平、杉江聡子、関光世、馮戦兵、渡邊ゆきこ

2.2.3 会員動向および会費納入状況

会員動向および会費納入状況は以下の通りである。

(1) 会員数(2022年5月31日現在): 計557名 ※会員数について会報第64号にて修正が入ります
(通常会員519名、名誉会員38名/個人会員497名、団体会員22名)

(2) 新入会者(2021年11月25日~2022年5月31日現在): 計18名2団体(以下敬称略)

黄頌頤(愛知国際学院)、史悦(戸板女子短期大学・非)、上野振宇(淑徳SC中等部・高等部)、吳青青(長崎外国語大学)、馮超鴻(早稲田大学・非)、陳力(神田外語大学)、大石敏之(大東文化大学国際関係学部)、南雲大悟(立教大学外国語教育研究センター)、鄭欣悦(新潟大学大学院現代社会研究科・院)、井田綾(りんず中国語ラボ)、姚瑶(芸術文化観光専門職大学)、湯淺英未(広島大学・院)、夏海燕(神奈川大学)、鈴木史己(南山大学)、胡康康(関西大学・院)、林嵐娟(大阪公立大学・非)、服部未来子(佛教大学通信教育課程・他)、華金玲(慶應義塾大学・他)、祝利(北九州市立大学)、鈴木清美(語林中国語教室・非)、芦田久美子(成城大学・非)、秋山咲貴子(九州大学地球社会統合科学府・院)、山梨学院大学孔子学院、内山深(株式会社内山書店)

(3) 退会届け提出者(2021年11月25日~2022年5月31日現在): 9名1団体

(4) 会費納入状況(2022年5月14日現在): 1,280,000円

2.2.4. 2021年度決算報告

2021年度の決算は本会報p.14の通りである。丸尾理事より、2021年度決算に関して、別添の監査資料に沿って報告がなされた。幹事手当の増加分は2年目になる3名の4-5月のサポートとして前年度より増加。また、会誌売上は例年5万だが、実質に照らして高めに設定してもよいのではないかと提案された。

2.2.5. 2022年度第1回編集委員会報告

相原委員長より、『中国語教育』21号の編集日程に関し、別添の作業表に沿って説明がなされ、これ

まで再査読依頼は年明けだったが年内までの発送に変更されたことが報告された。

2.2.6. デジタルリソース委員会報告

伊藤委員長より、学会Webサイトの更新作業および外部団体等からの掲載依頼の対応について報告がなされた。また外部団体等からの各種掲載依頼について、ウェブページに掲載するとともに広く会員に情報の周知をはかるためにメーリングリストでも更新情報を定期的に配信することにした。

2.2.7. 研究会担当、研究会開催報告および今後の研究会開催予定

鈴木理事より2022年度の研究会のスケジュールが以下の通り報告された。第3回は感染状況が改善されれば対面開催も視野に入れているが、現時点では判断できない。また募集方法、内容についても審議された結果、以下の通りとなった。

東日本担当：kanto@jacle.org

植村麻紀子、鈴木慶夏

西日本担当：kansai@jacle.org

長谷川賢、紅粉芳恵

1. 年間開催予定日

第1回：2022年8月27日（土）（担当：東日本、オンライン開催）

第2回：2022年12月10日（土）又は12月11日（日）（担当：西日本、オンライン開催）

第3回：未定（2月又は3月のいずれかの土日で、状況により対面開催を予定）

2. 募集方法、内容

- ・研究発表、授業実践報告等
- ・学会HPで募集する（団体または個人）
- ・発表者は会員に限る（団体の場合、筆頭者一名以上が会員であれば可）
- ・複数の応募があった場合、発表時期は発表者と協議する
- ・応募が少なかった場合、研究会委員で企画（講演、発表依頼）を考える
- ・事前にタイトルと400字以内の発表要旨を提出
- ・発表者は発表要旨により審査し決定する
- ・発表は質疑応答を含めて40分以内
- ・参加費無料（非会員も参加可能）

3. 第1回 研究会（担当：東日本）

日時：2022年8月27日（土）オンライン（zoom）開催

①5月中旬 学会HPで開催日時の告知

- ②6月4日（土）全国大会総会で告知後、HPにて募集開始
- ③募集締め切り 6月30日（タイトルと400字の要旨）
- ④応募先 Email: kanto@jacle.org
- ⑤締め切り後、正式に学会HPで日程、発表要旨を告知

尚、応募者多数の場合は、次回以降の研究会での発表を打診する。

2.2.8. 第21回（2023年度）全国大会について

第21回（2023年度）全国大会について、氷野会長より以下の通り報告された。

日時：未定（2023年5～7月ごろ）

場所：東海大学湘南キャンパス（〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1）

大会準備委員会：森山美紀子（委員長）、他の委員は人選中

2.2.9. 第22回（2024年度）全国大会について

第22回（2024年度）全国大会について、氷野会長より以下の通り報告された。

日時：未定（2024年5～7月ごろ）

場所：大阪大学箕面キャンパス（〒562-8678 大阪府箕面市船場東3-5-10）

大会準備委員会：古川裕（委員長）、中田聡美

2.2.10. 2022年度第2回理事会開催日

氷野会長より、「2022年度第2回理事会開催日」が以下の通り報告されたが、出席者の校務の予定に合わせ、適宜報告順を変更する旨が伝えられた。

日時：2022年12月4日（日）13:30～16:30

方式：オンライン

第2回編集委員会は、理事会の開催日までに開催予定。

2.2.11. 対外交流の動きについて

対外交流の動きについて、氷野会長より以下の通り報告された。

（2021年度第2回理事会以降から現在まで）

学会誌の寄贈・納本について

・世界華語文教育学会（台湾）から雑誌『華語文教学研究』の「第19巻第1期 2022年3月発行」が寄贈されてきた。韓国中国語教育学会（韓国）から『中国語教育』研究』（第36号2022年3月発行）が寄贈されてきた。本学会からは4月上旬に両学会に『中国語教育』第20号を送付した。

・2022年4月上旬に国立国会図書館に『中国語教育』第20号を2部納本した。

2.2.12. 除籍者の投票権について

氷野会長より、「除籍者の投票権について」は、除籍時期が選挙権の有無、選挙名簿に影響するため、前回の理事会の決定に従い、会則を以下のように変更したと報告された。

2021年第2回理事会による審議および投票による採決の結果、3年目の4月1日に未納者は除籍となる方針が決定し、「第5条（前略）2年間にわたり納入のない場合は、3年目の4月1日を以て会員資格を失い、除籍となる。」と除籍日時を明記するよう会則を変更する運びとなり、会則を以下のように改定する。

現行の会則	改定後
会則 第5条（会費） 本会の経費は会費および寄付金による。会費は個人、団体を問わず、年額5000円とする。会費は各年度初めに郵便振替によって納入する。2年間にわたり納入のない場合は、3年目に会員資格を失い、除籍となる。この規定により除籍となった元会員が再入会を希望する場合は、未納分の会費を納入しなければならない。	会則 第5条（会費） 本会の経費は会費および寄付金による。会費は個人、団体を問わず、年額5000円とする。会費は各年度初めに郵便振替によって納入する。2年間にわたり納入のない場合は、3年目の4月1日を以て会員資格を失い、除籍となる。この規定により除籍となった元会員が再入会を希望する場合は、未納分の会費を納入しなければならない。

2.3. 審議事項

2.3.1. 『中国語教育』編集委員会関連事項

相原委員長より、「『中国語教育』編集委員会関連事項」について、繁体字の規定についての検討、引用文の長短について検討していること等が報告され、ファイル形式は「.docx」に統一すること、チェックリストの細分化が承認された。また投稿規定と執筆要項の改訂及び投稿票と「見本（テンプレート）」の修正についても報告され審議された。審議結果については後日ウェブページに掲載される『中国語教育』に関するページを参照のこと。

2.3.2. 2022年度予算案

本会報のp.12に掲載の「2022年度予算案」が承認された。

2.3.3. 名誉会員について

氷野会長より、名誉会員候補者に関して、2022年度4月1日現在で条件を満たす会員が3名挙げられ、審議の結果、以下の3名が名誉会員として承認された。

小川文昭会員・武信彰会員・凌雲鳳会員

2.3.4. WEB版会員名簿の改修と不備への対応

氷野会長より、事務局で2023年度の名誉会員の候補者をピックアップした際に、170名にウェブ会員名簿の未記入部分（生年月日）があることが発覚したため、データベースの不具合の可能性を防ぐた

め、WEB名簿化される前のデータと現状のデータベースの内容を確認しながら補完していくことを確認した。また、WEB会員名簿に今後、会員のお知らせ機能を追加する方向で検討することが承認された。

2.3.5. 学会誌の電子化について

氷野会長より、「学会誌の電子化」について以下の通り報告され賛同を得られた。今後は時限的なワーキンググループを作り、今後関係各所と協議しながら作業を進めていくことが承認された。

2.3.6. 理事選挙の電子化について

氷野会長より、「理事選挙の電子化」について以下の通り報告された。立会人に関わる会則変更が生じるためチェック方法を含め第2回理事会で提案し、翌年度の総会で採決することが承認された。

2年に1回、理事選挙を実施しているが、直近3回の投票人数は142人（2021年）、117人（2019年）、139人（2017年）で、投票率はいずれも30%に未満である。また1回の選挙にかかる費用は20万前後かかるうえに、開票には多くの時間と人的資源が必要となる。

そこで次年度以降の理事選挙を電子化することができないか検討したい。

会則の変更と立ち合い人ルール

【現行】

（事務局→事務代行）被選挙人名簿の作成、送付用、返信用封筒の作成、内封筒の作成等

（事務代行→会員）被選挙人名簿の印刷と会員への郵送

（会員→事務局）返送

（事務局）開封作業

※2021年度の選挙にかかった費用はおおよそ18万強

【電子選挙を導入した場合】

（事務代行）選挙案内画面の作成、選挙人・被選挙人セット用データの作成、インポート

（事務局→会員）メーリングリストを通じて選挙の実施を告知

（会員）専用サイトにて投票

（事務代行→事務局）選挙期間終了後、投票結果のデータ送信

※費用 導入費用（初回のみ）：¥100.000

システム利用料（1選挙あたり）：¥50.000

サポート費：¥25.000

※サポート費用の内訳は「選挙案内画面の作成、選挙人・被選挙人セット用データの作成、インポート、投票結果のデータ送信」

2.3.7. 中国語教育ワークショップ・交流会の開催について

氷野会長より、本学会が期待する構成メンバーは大学、高校、専門学校、民間の教育機関で中国語を教える教員であり、その構成メンバーは必ずしも中国語教育の研究者ではなく、中国語教育に従事する教員であることも考慮する必要があるとあり、会則第3条に記載のある「(2)教員研修会，交流会，および研究会等の実践活動。」のうち、研修会、交流会といった点が十分に行われていないため、参加対象者を会員に限定したイベントを増やすことができないかと考え、今後「中国語教育ワークショップ・交流会」と題したイベントの開催について検討することが提案され承認された。開催に関わる詳細な枠組みや内容について、また講師役への謝金については「全国大会および研究会における謝礼の基準」を再検討していくことになり、次期理事会で継続審議することとなった。なお実現後は講師役の許可が得られれば今後実装予定のウェブ会員名簿ログイン後に表示される機能も用いてアーカイブサイトへ誘導して会員限定のサービスにすることも提案された。

2.3.8. 情報公開について

氷野会長より、情報公開の一環として、また新規会員の獲得のために、本学会の情報を積極的に公開していくことができないかと提案があった。理事会の開催時間の関係で詳細は次回の理事会への継続審議となった。

2.3.9. 理事の多選について

氷野会長より、直近2回の理事選挙で、理事候補に当選しながらも辞退される先生がおられ、少なからず「会長，理事の選出に関する内規」の4. で定められている理事の数に影響を与えている、という報告がなされた。この件についても次回の理事会への継続審議となった。

3. 2022年度会員総会報告

3.1 日時・方式

日時：2022年6月4日（土）17:10-18:00

方式：Zoomを使用したWeb会議

議長：清原文代

3.2 審議事項

3.2.1. 2022年度～2023年度役員

上記2.2.1. の案が審議にかけられ、承認された。

3.2.2. 2021年度決算報

上記2.2.4. の案が審議にかけられ、適切なものとして承認された。

3.2.3. 2022年度決算報

上記2.3.2.の予算案が審議にかけられ、承認された。

3.2.4. 2022年度決算報

上記2.3.3.で推挙された小川文昭会員・武信彰会員・凌雲鳳会員を名誉会員とする案が審議にかけられ、承認された。

3.2.5. 除籍者の投票権について

上記2.2.12.の案が審議にかけられ、承認された。

3.3 報告事項

3.3.1. 会員動向および会費納入状況

上記2.2.3.の内容が報告された。

3.3.2. 編集委員会報告

上記2.2.5.の内容が報告された。

3.3.3. デジタルリソース委員会報告

上記2.2.6.の内容が報告された。

3.3.4. 2022年度研究会

上記2.2.7.の内容が報告された。

3.3.5. 第21回（2023年度）全国大会

上記2.2.8.の内容が報告された。

3.3.6. 第22回（2024年度）全国大会

上記2.2.9.の内容が報告された。

3.3.7. WEB版会員名簿の改修と不備への対応について

上記2.3.4.の内容が報告された。

3.3.8. 学会誌の電子化の検討開始について

上記2.3.5.の内容が報告された。

3.3.9. 理事選挙の電子化の検討開始について

上記2.2.6.の内容が報告された。

4. 2022年度研究会開催報告

【終了分】

2022年度第1回研究会（西日本・東日本 合同主催）

日時：2022年8月27日（土）13:30～17:00

開催方法：Zoomオンライン

当日の流れ（発表30分＋質疑応答10分＝1人40分）

13：30～35 諸注意

13：35～14：15 周 云（北九州市立大学・院）“X+前后”の認知的考察—第二言語教育の視点より

14：15～14：20 休憩

14：20～15：00 許 挺傑（大分県立芸術文化短期大学） 初修中国語の発音指導におけるブレンド型授業の実践報告—2種類のブレンド型授業の比較を中心に—

15：00～15：10 休憩

15：10～16：30 HSKに関する勉強会 太田匡亮（大阪大学・院）HSK3.0改革について今分かること（HSK日本実施委員会国内認定試験監督官、汉考国际B級认证监考官）

16：30～17：00 ブレイクアウトルームで懇親会

参加者数：申し込み79人（会員52人、非会員27人）、参加者（冒頭46人、発表者1、250～52人、勉強会の時に最大で60人）

【今後の予定】

2022年度第2回研究会（東日本・西日本 合同主催）

日時：2022年12月11日（日）12:55～16:45

開催方法：Zoomオンライン

当日の流れ（発表30分＋質疑応答10分＝1人40分）

12：55～13：00 諸注意

13：00～13：40 康 鳳麗（鈴鹿医療科学大学）、森脇 健夫（武庫川女子大学）「学習者オートノミーを育てる「ふりかえり」の実践的研究Ⅱ」

13：40～13：45 5分休憩

13：45～14：25 林 旭巧（千葉大学・非）「コーパスから見る「吃饭了」と「吃了饭」の相違点」

14：25～14：35 10分休憩

14：35～15：15 樂 大維（拓殖大学・非）「日本臺灣華語成人班開課状況之調査報告—以横濱中華學院、慈濟日本分會、大阪中華學校、京都華僑總會為例—」

15：15～15：20 5分休憩

15:20～16:00 赤池 晴香（日中学院・非）「「おうち中国語」実施家庭における教材の使用状況とそのニーズ」16:00～16:05 5分休憩

16:05～16:45 姚 瑶（芸術文化観光専門職大学）「中国にルーツを持つ子どもの母語・継承語教育～演劇的活動を通じて親子の協働学習に着目する～」

2022年度第3回研究会（東日本・西日本 合同主催）

日時：2023年2月25日（土）又は26日（日）

形式：対面or Zoom（検討中）

5. 事務局からのお知らせとお願い

5.1. 会員動向

（以下、敬称略）

（1）会員数（2022年11月29日現在）：計555名

（通常会員517名、名誉会員 38 名／個人会員534名、団体会員 21名）

（2）新入会員（2022年6月1日～2022年11月29日）：計19名

于佳（九州産業大学・非）、王軒（東北大学）、藤原優美（広島市立大学）、鄭月超（中国紅河大学）、王棋（関西学院大学）、桂雯（東北大学）、國本延愛（北京師範大学・院）、瀬戸口勲（東京国際大学）、孟達来（島根県立大学）、王培（早稲田大学・院）、林旭巧（千葉大学・非）、張月珍（日本薬科大学・非）、思勤（目白大学・院）、酒艶悦（北海道大学・院）、劉礫岩（情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所・研究員）、丁小娜（なし）、橋本貴子（公立小松大学）、李曉倩（奈良女子大学・院）、小澤正人（成城大学）

5.2. 会費納入状況、会費納入のお願い

現在2,369,000円 ※2022年11月29日現在

会費未納の方は、お早めに納入くださるようお願い申し上げます。会費納入状況は会員自身でWEB版会員名簿（会員情報管理システム）にて確認することができます。

<https://a-youme.jp/jacle/member2/>

4月に郵送した払込取扱票を紛失された場合は、郵便局に備え付けの「払込取扱票」を使用して、下記の郵便振替口座に送金してください（その場合には、通信欄に氏名および会員番号を、会員番号がわからなければ、氏名に加えて学会に登録している住所を必ずご記入ください）。

[口座記号－口座番号] 00110-1-191152

[加入者名] 中国語教育学会

5.3. 退会および除籍について

退会を希望される方は、当該年度までの会費をすべて納入した上で、学会サイトの「Web版会員名簿・変更手続き」にログインして退会手続きを取っていただきますようお願いいたします。なお、会則第5条に基づき除籍になった会員は氏名が会報に掲載されますのでご注意ください（会報は学会Webサ

イトで公開)。退会届が受理された場合、退会者の氏名は掲載いたしません。

5.4. 登録情報の変更について

学会登録情報（住所・所属・メールアドレス等）に変更がある場合には、会員自身が本学会サイトの「WEB版会員名簿・変更手続き」にログインして、ご自身で変更していただきますようお願いいたします。

WEB版会員名簿（会員情報管理システム）の運用については、あゆみコーポレーションに委託しております。WEB版会員名簿に関するお問い合わせは下記のあゆみコーポレーションまでお願いします。

〒550-0001

大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A

あゆみコーポレーション内 中国語教育学会事務局事務代行

E-Mail : support@jacle.org

TEL. 06-6441-5260 (代) FAX. 06-6441-2055 (代)

あゆみコーポレーションは複数の学会の事務局代行を行っており、電話番号、ファックスとも他学会と共通で使用しているため、ご連絡の際には「中国語教育学会」についての問い合わせであるということをお伝えください。

5.5. 第21回（2023年度）全国大会について（続報）

第21回全国大会準備委員（五十音順、敬称略）

安藤好恵、石井宏明、勝川裕子、劔重依子、竹中佐英子、趙秀敏、張立波、中田聡美（事務局幹事）、平山邦彦、丸尾誠、森山美紀子（委員長）、李偉

①開催日時について

日時：2023年6月3日（土）、4日（日）（予定）

②開催方式について

2023年1月に開催校のコロナ対策本部に対面方式による開催の申請をし、審査を受ける。審査結果により、対面方式かオンライン方式かのいずれかによる開催を決定。

③開催会場について

案1：対面方式

…東海大学湘南キャンパス（キャンパスマップ・アクセスについては、このファイルの最後に添付した資料を参照）

所在地：〒259 - 1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1

案2：オンライン方式…Zoom会議

中国語教育学会 2021 年度会計決算書

	収入		支出	
	2021 年度予算	2021 年度決算	2021 年度予算	2021 年度決算
会費	¥2,400,000	¥2,516,000		
事務委託費(郵送費を含む)			¥1,300,000	¥1,243,038
事務費(事務局)			¥60,000	¥43,450
郵送費(事務局)			¥25,000	¥8,050
振込手数料			¥15,000	¥4,420
会議費			¥30,000	¥0
旅費			¥150,000	¥4,000
全国大会開催費		¥204,816 ※1	¥400,000	¥400,000
研究会等開催費			¥100,000	¥0
著作権規定検討委員会活動費			¥100,000	¥0
会誌編集印刷費			¥650,000	¥581,900
会誌売上	¥50,000	¥103,250		
幹事手当			¥330,000	¥330,000
利子		¥49		
小計	¥2,450,000	¥2,824,115	¥3,160,000	¥2,614,858
前年度繰越金	¥6,420,056	¥6,420,056		
予備費/次年度繰越金			¥5,710,056	¥6,629,313
合計	¥8,870,056	¥9,244,171	¥8,870,056	¥9,244,171

※1 第19回全国大会の余剰金返金分

監査の結果、経理内容は適切であり、会計諸表は的確に処理されていることを認めます。

2022年 4月 11日

2021 年度会計監査

塩山 正 純 

2021 年度会計監査

日下部 直美 

資料2 2022年度予算案

	収入	支出
前年度繰越金	6,629,313	
会費	2,400,000	
事務委託費(郵送費を含む)		800,000
事務費(事務局)		60,000
郵送費(事務局)		15,000
振込手数料		10,000
会議費		50,000
旅費		150,000
全国大会開催費		400,000
研究会等開催費		200,000
会誌編集印刷費		600,000
会誌売上	50,000	
幹事手当		300,000
小計		2,585,000
予備費/次年度繰越金		6,494,313
合計	9,079,313	9,079,313